

オリックス資源循環が設立20周年

有元 健太郎 新社長に聞く



今年9月に会社設立20周年を迎えるオリックス資源循環は、ケミカルサイクルや発生ガスを利した高効率発電など、高度リサイクルを通じて資源循環の取り組みを進めてきた。2006年旗艦施設である熱分解ガス化改質施設(寄居工場(日量450t))を埼玉県寄居町に構え、PF事業として運営。施設は現在まで安定運転を続けており、昨年はタンク廃棄物回収施設、PF事業として運営(同一拠点)を同町で稼働させ、焼却しない廃棄物中間処理に着手した。今年6月には、PF事業はビジネスの立ち上げから関わってきた有元健太郎氏が社長に就任した。「施設の稼働は軌道に乗り、当初イメージしていたビジネスモデルは形になってきている」という有元社長に廃棄物処理業界に参入した当時のことや、社長就任の抱負などを聞いた。

設立当時を振り返り、早期に一般廃棄物の処理にも着手した。溶融炉施設では埼玉県内を中心に市町村のバックアップ施設として、60以上の自治体から一般廃棄物を受け入れていた。新設の寄居バイオガスプラントでは4月から埼玉県の小川地区衛生組合の可処分ガスを供給できることを目標にした。それを表現するために導入したのが、熱分解ガス化改質方式の溶融炉施設だ。

高度リサイクルに進化した20年 次世代につなぐ「第二創世期」の発展へ

「4月に施行されたプラスチック資源循環促進法によってプラスチックの資源化事業の伸長が期待されるが、多少費用が掛かっても環境にやさしい処理をするという世界観になっていくと思う。そのため廃棄物になる以前、つまり製造段階からわかれが

「後の抱負は、次世代へバトンがなされるように、自治体とともに廃棄物処理を広く事業化する取り組みを進めたい」と思っている。

「4月に施行されたプラスチック資源循環促進法によってプラスチックの資源化事業の伸長が期待されるが、多少費用が掛かっても環境にやさしい処理をするという世界観になっていくと思う。そのため廃棄物になる以前、つまり製造段階からわかれが

積極的に関わり、サイキエノエノミーを踏まえたビジネスモデルを構築していきたいと考えている。

「脱炭素化に向けて、これまでリサイクルにおいて最先端技術を積極的に導入してきた。温暖化対策についても業界のリーディングカンパニーとして牽引していく存在でありたいと考えている。また、廃棄物処理業は、ルール上処理を委託した時廃棄物事業者側の炭素分を引き受けていく。このルールは構造的な問題があると感じており、現在、多方面で考え方の転換を働きかけている。同時に当社でも多岐の対策をハードソフトの両面から進めていくつもりだ。」

焼却由来CO2の CCS 技術開発を推進

ミダック(浜松市)は、早稲田大学理工学研究所(小峯秀雄教授)との共同研究を通じて、廃棄物焼却施設から放出されるCO2を、同じく焼却施設から副産物として排出される水蒸気等から製造する機能性プラスチックに固定し、最終処分場に貯留するCCS(回収・貯留)技術の開発を進め、廃棄物処理の脱炭素化を目指す。

わが国の廃棄物分野の温室効果ガス排出量は3782万tCO2換算(18年度)で、そのうち焼却由来のCO2が約80%を占めている。2050年のカーボンニュートラル達成のためには、廃棄物焼却に伴って排出されるCO2の削減が大きな課題となっている。

同社と小峯教授は、焼却由来CO2の産業副産物の固定化を目的として、廃棄物焼却施設から排出される水蒸気等からCO2を回収・貯留し、これをCO2として再利用する技術を開発している。このCO2は、最終処分場へのCO2貯留の有効性が示された。同社の共同研究は、2023年1月に掲載予定となっている。

三木リサイクルセンター 管理型処分場を拡張

大栄環境(大阪府和泉市)は、兵庫県三木市にある三木リサイクルセンターを進めた管理型最終処分場の拡張について、4月27日付けで産業廃棄物処理施設変更許可証を取得し、8月3日に産業廃棄物処理施設の許可証を書き換えられたと発表した。

三木リサイクルセンターは、1991年に開設し、サマルリサイクル施設をはじめさまざまな中間処理施設と大規模な

DX戦略講座

「コーポレートガバナンス企業統治」とは、株主をはじめ顧客や従業員、地域社会との立場を踏まえたうえで、透明公正かつ迅速な意思決定を下すための仕組みであり、企業の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を目的として取り組まれているが、一般的に企業の実行を防止し収益力強化の2点が重視される。

従来の「ITガバナンス」は、コーポレートガバナンスを確保するためにITの力を活用する。つまり情報システムの安定稼働のためのリスク管理が中心だった。しかし、

「ガバナンス」について

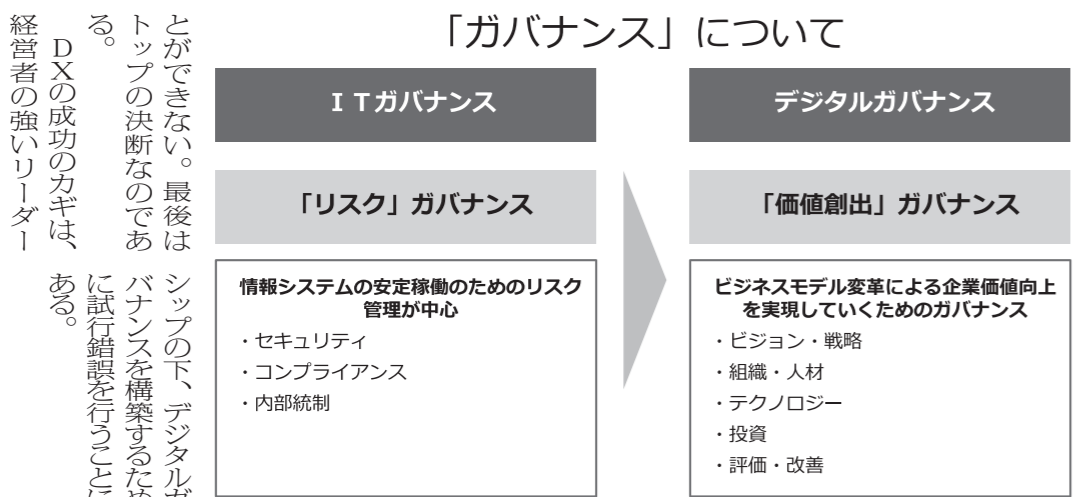
「ガバナンス」について、その実態を把握し評価を導くための大きな役割を担う。デジタルガバナンスの創出を最大化するためのデジタルガバナンスの重要性は、企業のDX推進の鍵となる。デジタルガバナンスの創出を最大化するためのデジタルガバナンスの重要性は、企業のDX推進の鍵となる。

「IIガバナンス」から「デジタルガバナンス」へ

「IIガバナンス」から「デジタルガバナンス」へ、その実態を把握し評価を導くための大きな役割を担う。デジタルガバナンスの創出を最大化するためのデジタルガバナンスの重要性は、企業のDX推進の鍵となる。

「ガバナンス」について

「ガバナンス」について、その実態を把握し評価を導くための大きな役割を担う。デジタルガバナンスの創出を最大化するためのデジタルガバナンスの重要性は、企業のDX推進の鍵となる。



「ガバナンス」について、その実態を把握し評価を導くための大きな役割を担う。デジタルガバナンスの創出を最大化するためのデジタルガバナンスの重要性は、企業のDX推進の鍵となる。

街を涼しく雨水を地下に 緑化駐車場

雨水流出抑制・景観・温暖化対策 緑地面積の確保に。

コンタイプブロック®

安心の平面歩行路。 施工が早く、 撤去、移動再施工可能。

歩行帯

格子形状がタイヤ圧から芝生を保護

地下利用例

駐車場の下にシンシブロックを設置することで、雨水の浸透・流出抑制施設とし、貯留水を植物の灌水として利用することができます。

コンタイプブロック

雨水浸透

雨水貯留浸透施設 シンシブロック (SSBB)

株式会社 林物産 TEL:0294-35-2345 FAX:0294-35-0234 E-mail: info@hayashibussan.co.jp

中川ヒューム管工業株式会社 TEL:029-821-3611 FAX:029-821-3620 URL:https://www.h-nac-hp.co.jp/

再生プラスチック製 パネケープ

空疎率 94% 耐自動車荷重 T-25以下 最大埋設深さ 3.99m

雨水貯留浸透製品

大規模施設に最適! 本格的維持管理機能! 現場都合で施工が可能!

部材4点で、50cm角空間を形成する L型パネル、バスル 感覚組立工法

50cm角空間

中小規模施設に最適! 合理的・経済的設計が可能! 簡便施工によりトータルコストダウン可能!

NEW ニューレック座台

特殊プラスチック製により、従来のコンクリート座台に比べ、1/9の軽量化になり運搬・設置が楽々。また充分な耐力を有しています。

再生プラスチック製 システムパネル

空疎率 95% 耐自動車荷重 T-25以下 最大埋設深さ 3.6m

広く浅い所の設置には最適 スーパーフレーム

軽量ハニカム構造ブロック ハニカムトレンチ

内部の様子

自在製

フレームの組み合わせにより現場の形状に合わせた施工が可能。 矩形形状の溝の構築も可能です。

水の流れがスムーズ

フレーム構造のため、溝内部でのスムーズな水の流入・流出が可能です。

空疎率...94% 耐自動車荷重...T-25以下 埋設深さ...最大2.0m

空疎率...95% 耐自動車荷重...T-14以下 埋設深さ...最大2.9m

販売エリア:関東地区

EBATA エバタ株式会社

本社 〒125-0041 東京都葛飾区東金町1-38-2 E-mail: eigyou@ebata.co.jp TEL:03-3600-1522 FAX:03-3600-2090 http://www.ebata.co.jp/

